

巻 頭 言

今日の人類の文化の発展、繁栄、そしてその享受は、200世代の永きにわたる、祖先の生活の向上を目的とした絶え間ない真摯な営みと、その結果、創造された知識、技能、態度、価値といった文化が着実に子孫に伝承されてきた結果である。ここに人類の学習の意義があり、また、この学習による文化の伝承が教育の主要な目的があることはいうまでもない。しかし、永い人類の歴史をたどると、人類の文化発展が単なる現存する文化の習得、伝達だけではなかったことを教えてくれる。人類の社会文化の発展は祖先が意図的あるいは無意図的になしてきた生存様式の改善を目的とした文化創造への絶え間ない知的好奇心、求知的欲求、創造欲求やこれに基づいた努力に支えられてきたからである。ここに人類がもつ大きな潜在能力を再認識するのである。

文化の伝承と創造の2側面を基本的な目的とした教育の営みも、社会の進展とともに効率化が図られ変化してきた。わが国においても、近代学校教育が開始されて以来150余年の歳月が経過してきた。この間、わが国の学校教育における学習が国民の基礎学力の育成において世界に類のないほどの成果を挙げてきたことは疑いのないところである。戦後のめざましい科学技術の進歩や情報化、さらには経済の発展、またそれに伴う国民のめざましい生活水準の向上等はわが国の学校教育における学習形態がもたらした産物であるといえよう。

しかし、このように基礎学力の育成に多大な成果をあげてきたわが国の現在の教育のあり方、国民の学習のあり方が、今後、永劫に機能していくことができるかどうかという問いにはいくつかの疑問が残る。わが国の学校教育における学習のあり方が、今まで、世界でも類をみないほど、児童生徒の基礎学力の向上に貢献してきた反面、登校拒否の児童生徒の増加、いじめの増加、高等学校の中途退学者、引きこもり生徒の増加など学校生活における不適応者を生じさせているのも事実である。また、昨今、わが国の国是としてきた基礎学力にも翳りがみえはじめてきている。

いっそうの国民の幸福と文化の発展を持続していくためには、かつて、われわれの祖先が羅針盤のないなか、生存様式の改善を目的とした文化創造への強い意志と情熱をもって絶え間のない自己改革をはかってきたように、我々は今、将来のわが国の教育、国民の学びのあり方を考える新しい学習科学を確立し、幾多の問題に直面している我が国の学校教育、学習のあり方を大きく改革していく必要に迫られている。こうした目的から、平成9年4月に広島大学大学院教育学研究科学習開発専攻が設置された。爾来、教育学、心理学、教科教育学、障害児教育学のそれぞれの専門領域の研究者が、従来の教育に関連する専門科学の狭い枠組みから脱却し、諸科学相互の相補、統合をはかり、新しい学習科学の確立にむけて着実に発展してきた。特に、本専攻は毎年、外国人客員教授を招聘し、国際的視野に立った共同の研究を行い、国内学会、国際学会、学術誌等で研究成果を世に問うてきた。また、一年に2回、国内外の研究者、地域の教育関係者と学習科学フォーラムを開催し、新しい学習科学の発展に寄与してきた。学習開発専攻は本年、設立10周年を迎え、本講座のスタッフのみならず、多くの大学院生も国際学会で研究成果を発表するまでになった。また、外国人客員教授を核

とした研究ネットワークも発展し、学習科学での国際的研究協力の輪を広げつつある。

ここに今までの研究紀要「学習開発研究」を発展させ、新たに、「学習開発学研究（第1巻第1号）」として研究紀要を刊行することができたのは、本講座のスタッフ、客員教授、大学院生の学習科学研究への努力は無論のこと、国内外の関係機関、関係者の本講座の研究活動へのご支援とご指導の賜である。心から感謝申し上げたい。

今後、この研究紀要が学習科学の研究討議の場となるためには、多くの方々のご指導が必要である。広くご意見、ご批判を賜れば幸いである。

平成19年4月

広島大学大学院教育学研究科

教授 石井 眞 治